



Data

監督: ニルス・タヴェルニエ
原案: ファニー・デマレ
出演: ジャック・ガンブラン/レティシア・カスタ/フロラン・ストマサン/ベルナール・ル・コク/ナターシャ・リンディンガー/ゼリー・リクソン/ルカ・プチ=タボレーリ

■■■ショートコメント■■■

◆映画は勉強。さらに、映画によってはじめて知る世界はたくさんあるうえ、いずれも魅力的だから、映画を観れば楽しみながら勉強できることになる。しかし、本作は建築のお勉強と何十年も同じ仕事に一心不乱に取り組んだ頑固な男の人生のお勉強に最適だ。

チラシの表には「ピカソも驚嘆の実話！愛娘のため33年かけたたった一人で築いた奇想の宮殿」、裏には「完成まで9万3000時間！ピカソも驚嘆のDIY宮殿 寡黙で不器用な男の途方もない挑戦を支えた愛と夢の物語」との見出しが躍っている。また、そこには壮大な宮殿の写真が載っている。

パンフレットによれば、これは「フランス南東部ドローーム県のオートリーヴ村に現存する理想宮で、1879年から1912年の33年間、9万3000時間を費やし完成した。スケールは東西26m、北14m、南12m、高さ8~10m。古今東西の様々な建築様式やモチーフが混在し、雑誌や絵葉書を情報源に空想癖の強いシュヴァルが思い描いた夢想が表現されている。」そうだ。

こんな映画は必見！だって、たった105分で素晴らしい体験ができるのだから。

◆私が本作を観て思い出したのは、菊池寛の『恩讐の彼方に』。これは、ある罪滅ぼしのために、「青の洞門」を21年かけて開削した実在の僧を主人公にした短編小説。シュヴァルは33年だから、同作と比べても、まだすごい。

また、日本には「巖窟ホテル」なるものがあったそうだ。これは農民の子として生まれた高橋峰吉が独学で身につけた知識をもとに、1904年から1925年まで21年かけて、ノミとつるはしを使い独力で掘り続けて完成させたもの。この「巖窟ホテル」は、間口20間で3階建ての洋風建築であるのに対し、“シュヴァルの理想宮”は前述のとおり宮殿だから、もっとすごい。

もっとも、イギリスのEU離脱が迫り、フランスでも反マクロン大統領へのデモで明け暮れている昨今、1969年当時のアルドレ・マルロー文化相による重要建造物の指定は、いつまで続けられるのだろうか？

◆ノーベル賞受賞者の講演を聞くと、偉大な発見を完成させたきっかけは、小さな偶然であることが多い。しかし、シュヴァルが“シュヴァルの宮殿”を作ろうと思いついたきっかけは？

また、何の知識もなくとも壮大な建築物を建てられることは「巖窟ホテル」の例でも明らかだが、一体シュヴァルはどんな想像から宮殿の設計図を描き、どんな工夫で頑丈な高層宮殿を建築したの？それは、本作を観ながらじっくり楽しみたい。

しかし、本作が教えてくれる最大のポイント（教訓）は、これほと思ったものは、完成までとにかく努力を続けること。その努力を続けることができることが大切なのだ。そう考えると、俺だって！私のシネマ本の出版は現在45冊となり、何とか『シネマ50』までは！と考えていたが、本作を観ると、何の何の、目標を『シネマ100』まで！に切り替えなければ・・・。

2019（令和元）年12月28日記